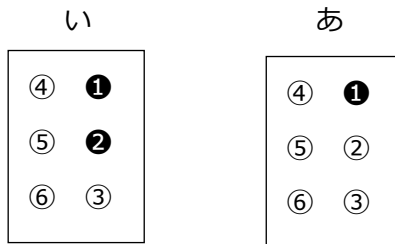


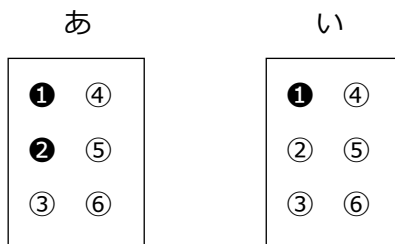
点字のあらまし

- てんじ ふらんす るい ぶらいゆ 1825ねん こうあん
 1. 点字は、フランスのルイ・ブライユによって、1825年に考案されたもので、
 たて3てん よこ2てん けい6てん くみあわせ
 縦3点、横2点、計6点の組み合わせによる。
- にほんてんじ 1890ねん めいじ23ねん 11がつ1にち とうきょうもう がっこう
 2. 日本点字は、1890年（明治23年11月1日）東京盲学校の
 「いしかわくらつぐ」せんせい こうあん
 「石川倉次」先生によって考案されました。
- てんじ てん てんじ たんい 「ます」6てん くみあわせ すうじ
 3. 点字は点でできています。点字の単位は「マス」6点の組み合わせで、かな、数字、
 あるふあべつと きごうるい あらわします いってん みす
 アルファベット、それにいろいろな記号類も表します。一点のミスまったく
 ちがうもじ まちがわない かく たいせつ
 違う文字になります。間違わないように書くことが大切です。
- てんじ 50おん ぼいん あらわすぶぶん 124 てん しいん あらわすぶぶん 346
 4. 点字の50音は、母音を表す部分（①②④の点）と子音を表す部分（③④⑥
 てん こうせい わぎょう あいき おなじかたち もっとも
 の点）によって構成されています。ただし、ワ行とア行と同じ形を最も
 した いち さげ やいき 4 くわえてあらわせます
 下の位置に下げ、ヤ行はそれに④の点を加えて表せます。
- てんじ すべてよこがき もじ おおきさ いってい かえる てんじばん
 5. 点字は全て横書きで、文字の大きさが一定で変えることができません。点字板、
 じょうぎ てんひつ もちいて てんじようし てんひつ すいちよく たてて みぎ ひだり
 定規、点筆を用いて、点字用紙に点筆を垂直に立てて、右から左へ
 かいて おうめん よむ うらがわ とつめん ゆびさき
 書いていきます。（凹面）。読むときは、裏側の（凸面）を指先でふれて、
 ひだり みぎ よんで
 左から右へ読んでいきます。

←左方向（書くとき） 凹面



凸面（読むとき） 右方向→



てんじ いみ りかい いてい きそく くぎり かきます
6. 点字は、意味の理解をはっきりするために一定の規則により区切りをして書きます。

「わかちがき」
これを「分かち書き」といいます。

ふつう もじ じょし 「・・・は」 「・・・へ」 てんじ はつおんどおり
(ア) 普通の文字で助詞の「・・・は」、「・・・へ」は、点字では発音通りの

「わ」「え」とかきます。また、「う」というも字を長音で発音して読むものは、点字で

ちょうおんきごうつかって にほん てんじ もじたいけい れいあうと
は長音記号使ってかきます。日本の点字はかな文字体系で、レイアウトが

せいげん かかれた せいやく
制限され、書かれたものがかさばるなどの制約があります。

れい
[例]

きょう あさ てんじとしょかん いきました とちゅう もうどうけん あいました
今日は朝から点字図書館へ行きました。途中で盲導犬に合いました。

①きよーわ□あさから□てんじ□としょかんえ□いきました。

とちゅうで□もーどーけんに□あいました。

かく かいだてん やぶれたり でて
(イ) 点字を書くときには、書いた点が破れたり、うすく出ていたりすることがないよ

ましがえたばあい ましがえたます ぜんぶ てん かき てんじ め
うにします。間違えた場合は、間違えたマスの全部の点を書き(点字でメ)、さらに

かく つづき ます ぜんぶ
もうひとつそれを書くか、ひと続きのマスを全部(メ)にする方法があります。

つづき かくたんご ぶんせつ とちゅう ぎょうがえ
7. ひと続きに書く単語や文節の途中では、行替えをしません。

てんやくぼらんていあかつどう
★点字についての、点訳ボランティア活動などについては、

くまもとてんじとしょかん おたずね
熊本点字図書館へお尋ねください。

☎ 096-383-6333

FAX 096-383-7821